

シグマ委員会

6年度第3回運営委員会議事録(案)

日時： 1994年10月4日(火) 13:30～17:30

場所： 日本原子力研究所 本部 第3会議室

出席者： 中嶋(法政大、主査)、吉田(原研、委員長)、山野(住友原工)、北沢(東工大)、
石川(動燃)、水本、菊池、中川(原研)

オブザーバー： 更田(NEDAC)、松延(住友原工)、岡本(原産)、岸田(CRC)、川合(東芝)、
柴田(中島氏代理、原研)

配布資料

1. 6年度第2回運営委員会議事録(案)
2. 平成6年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録(案)
3. 菊池氏出張報告
 - ・ IFRC核融合のための原子分子データに関する小委員会第8回会合
 - ・ IAEA主催専門家会議「核融合炉工学のための放射化断面積測定と実験技術の比較」
 - ・ IAEA助言家会合「FENDLの改良評価と積分データテスト」
 - ・ その他
4. 日本物理学会原子核実験・原子核理論合同シンポジウム「日本の核データ研究活動の現状」の予稿
5. IAEA/CRP on Reference Input Parameter Library に関する報告
6. 1994年核データ研究会実行委員会第2回会合議事録(案)、研究会の案内及びプログラム
7. 高エネルギー核データ専門家会議実行委員会会合議事録(案)
8. サンプル/ターゲット(仮称)WG
9. 「ハドロン多体系のシミュレーション」研究会の案内

議事

1. 議事録確認

1.1 運営委員会議事録

前回(94年6月17日)の議事録を確認した。

1.2 本委員会議事録

以下の箇所を修正後、6年度本委員会議事録を了承した。

- ・ 5ページ目FBR、LWR積分テストWGの項
「..... JENDL-3.2炉定数ライブラリーを整備し、公開する。」

↓修正後

「..... JENDL-3.2炉定数ライブラリーを整備する。」

- ・ 6ページ目1993年核データ研究会報告

配布資料17 → 配布資料16

2. 報告事項

2.1 IFRC核融合のための原子分子データに関する小委員会第8回会合報告

菊池氏が配布資料3で、ウィーンで9月5～6日に開かれた標記の会合について報告した。オンラインシステムAMDISが完成したとの報告がNDSよりあった。プラズマ周辺部の水素分子の挙動モデル及び化学腐食に対する中性子及び γ 線の照射効果の重要性が指摘された。IAEA/NDS A&Mユニットの人員削減に反対する勧告を行った。

2.2 IAEA主催専門家会議「核融合炉工学のための放射化断面積測定と実験技術の比較」報告

菊池氏が配布資料3で、サントペテルスブルグで9月8～9日に開かれた標記の会合について報告した。本会合は核融合炉の安全解析に重要となる放射化断面積の測定をIAEAの枠内の国際協力で行うことを目的とする調整会合である。前回会合以来の測定の進捗状況が報告された。今後さらに協力を続けると共に、IAEA CRP「核融合炉に重要な長寿命放射性核種生成断面積」を18ヶ月延長することをIAEAに勧告した。

2.3 IAEA助言家会合「FENDLの改良評価と積分データテスト」報告

菊池氏が配布資料3で、ガルヒングで9月12～16日に開かれた標記の会合について報告した。ITER代表よりFENDL-1の完成を最重点にし、FENDL-2はその後やって欲しいとの立場が表明された。FENDL-1は response function を加えて年内に公開することになった。FENDL-2に収納する候補データは来年2月までに担当者に送り、次回会合で最終的に決定する。

2.4 IAEA/NDSオンラインデータサービス

菊池氏が配布資料3で、IAEA/NDSにおいてオンラインデータサービスが開始されることを報告した。核データセンターは情報システムセンターから管理を委託されているEWSを使って、オンライン・データ・ネットワークに対処する。

2.5 日本物理学会原子核実験・原子核理論合同シンポジウム「日本の核データ研究活動の現状」報告

菊池氏が配布資料4で、10月2日に山形大学で開かれた標記シンポジウムの報告をした。

2.6 Reference Input Parameter Library に関するIAEA CRP報告

中川氏が配布資料5で9月19～23日イタリアのチェルビアで開催された標記会合（深堀氏出席）の報告をした。原研で整備しているINDESのデータベースをCRPに提供する用意がある。光学模型に関して原子力学会の専門委員会「統一的中性子ポテンシャル」に情報を提供する必要があるとのコメントが出された。

3. 審議事項

3.1 1994年核データ研究会について

川合氏が配布資料6で、核データ研究会準備の進捗状況を説明した。準備は予定通り進んでおり、国内講演者については決定した。海外への通知を早い時期に出すべきであったとの指摘があり、来年度への申し送り事項とした。

3.2 高エネルギー核データ専門家会議について

岸田氏が配布資料7で、プログラム案を説明した。理論、実験、評価及び利用の4つの分野についてほぼ等しい時間配分を考えている。シグマ委員全員にアナウンスを送付する予定である。議論の結果プログラム案は了承されたが、日程については実行委員会と事務局で至急再検討することになった。

3.3 I N D C 対応

菊池氏より、I N D C 委員であった中島氏が健康上の理由で菊池氏に交代したい旨の報告があり了承された。また次期I N D C の議長は日本の順番であるが、N D S ではそれをスキップする意向があるので、日本としては慣習に従って引き受ける意向であり、シグマ委員会はそれを全面的に支持することになった。

3.4 核反応データセンターネットワークについて

菊池氏より、N E A N S C が現在のデータセンターネットワークをN E A、I A E A の2センターが中心となるように改組することを提案しているとの説明があった。このことは日本政府並びに原研にとって重大な変更であり、情報を早急に入手する必要があるとの意見が出された。またこの改組の協定を10月末にウィーンで審議するとの情報もあり、確認の上S T A 調査・国協課とも協議して対応を検討することにした。

3.5 サンプルとターゲットに関するWGについて

岡本氏が、配布資料8で標記WGの目的等を説明した。日本では人材を集めるのがかなり難しいとのコメントが出された。議論の結果、すぐにはWGは作らず岡本、水本両氏が中心となって活動を進めて行くことになった。

4. その他

- ・ ハドロン研究会について菊池氏よりアナウンスがあった。
- ・ 陽子工学センター検討会

菊池氏と水本氏から、「原研では、大強度陽子加速器を使った幅広い測定施設を作る予定である。そのひとつに核データ測定施設を考えており意見を聞くためのworkshopを開いて提案書を作りたい。」との話があった。

- ・ 「次の原子力学会では、(核データ・炉物理)合同特別会合を1時間程度に短くし、そのかわり、J E N D L - 3.2 についての総合報告を行いたい。」と菊池氏が提案した。概ね了承し、内容については事務局にまかせることとした。

次回は12月15日(木)とするが、高エネルギー核データ専門家会議の日程に依り、変更の可能性はある。

宿題

担当者	宿題事項	期限
事務局	佐々木誠氏(MAPI)に運営委員会に出席してもらう。	至急
山野氏	標準炉定数検討WGのJSSTD-3.2についての作業計画を検討する。	至急
事務局	原研が使用しているネットワークの仕様を調査する。	至急
事務局、高エネルギー核データ専門家会議 実行委員	高エネルギー核データ専門家会議の日程を再検討する。	至急
事務局	春の原子力学会でJENDL-3.2の総合報告の内容を検討する。	至急